

コラム③

トウヒ (*Picea*) 属の標本を落葉させずに作るには

トウヒ (*Picea*) 属 (エゾマツ *P. jezoensis* (Siebold et Zucc.) Carrière、ヨーロッパトウヒ *P. abies* (L.) Karst. など) の乾燥標本を作ったことがあるでしょうか。普通に押し乾燥すると、新聞紙を開いたときがっかりします。きれいに枝の形に葉が落ちて丸裸になっています。マツ (*Pinus*) 属やモミ (*Abies*) 属の葉がしっかりと着いているのとは対照的です。なんとか葉を着けたまま乾燥したいといろいろ試してみました。乾燥する前に殺してしまえばいいと考えて、高温乾燥や湯がいてから乾燥してみました。乾いた段階できれいに落ちました。超低温でフリーズドライも試みましたが、これは設備も必要で乾燥自体を失敗。不可能なのかとも思いましたが、北大総合博物館で標本庫を見ていると原松次標本だけが妙に葉を着けていました。いろいろと人に尋ね

た結果でもこれだという回答はなかったのですが、アルコールで殺す=焼酎に漬けるという有望な方法が残りました。原松次氏は焼酎を使ったに違いないとの仮説を立てて、濃度別・浸漬期間別にアカエゾマツの枝をエタノールに浸してから乾燥する実験をしました。濃度はエタノール 30, 50, 70%、浸漬期間は 1-4 週間としました。

結果は 30, 50% ではいつまで浸してもあまり効果はありませんでした。70% では 2 週間から効果が出始め 3 週間で落葉をほぼ止められることが分かりました。仮説の焼酎よりはかなり強いアルコールが良いとの結果になりました。実際の標本をアルコール漬けにするためにはかなり大量のアルコールが必要で揮発を防ぐための容器も工夫する必要があります。かなり色が抜けてしまうという欠点もありますが、葉の着いた標本を作りたいという所期の目標は達成されそうでした。

今回の実験の成果を応用して、99%エタノールに 2 週間漬けた後乾燥した標本が図 1 です。触れるとパラパラと落ちやすいのですが、取りあえずは葉が着いているエゾマツの標本ができました。

(新田 紀敏)



図 1 99%エタノールに 2 週間浸漬後乾燥したエゾマツの標本